

8月に市長選という驚くべき事態となった
平成28年に保健所長を辞した時から
次期市長選に立候補しようと考えていた
来年4月を目途に準備を進めていたが
前倒して市長選が行われるので、私も立候補させていただく
今、小樽市民が総力を挙げて考えなければならないのは、
人口減少が突きつけられている現実だと思う
今まで20万人をピークに小樽市の人口が減ってきているが、
これほど真剣に、必ず減るといふ事実が突きつけられたことは無かった
小樽市の人口減少がこれほどはっきりしている今
それに対してどうしていくのかということが最大の課題だと思っている
部長職（保健所長）として働いていた8年間の間に
非常に強く思っていたことは
小樽市民や団体は色々なことについて市に陳情をする
それは小樽市への熱い思いがあるからと認識しているけれども
そういった、市へ陳情するだけの小樽では大きな改革は出来ないのでは
ないかと思っていた。
歴代市長もかなりの努力をしている
市職員も力を合わせて小樽を良くしようと努力をするが
大きな改革ということになるとなかなか難しいのが小樽の現状だ
もちろん財政基盤の問題もあるが
市民自らが互いに意見を戦わせ、小樽市の方向性を自ら決定していくという
そういう新たな場を創出する必要があると思っている
これは今までなされてきた市民参加とは違うものだ
市民参加と言えば、市民の代表の方々から意見を聞く場は設けてきたが
市民に決定権は無かった
しかし、大きなこれからの小樽市の方向性を決めるには
市民がただ陳情するのではなく、それぞれの陳情の思いをお互いに聞き、
お互いに検討する中で、自分たちで考えていくという
真摯な場を設けること無しには、
小樽市はどちらの方向を向くことも出来ないのではと思っていた。
平成8・9年に北海道・全国の自治体職員が北海道大学に集まって
地方分権・住民自治といった問題について勉強した時期があった
私も小樽市職員として出席し、住民自治といった問題を勉強させてもらった
それから20年経ったが、これからは住民自治の時代だと思っている
市長に任せていれば何とか解決できる
市職員が頑張れば何とかなる
議員が頑張れば何とかなるということで
これまで営々と努力されてきたことについて敬意を表するが
そろそろ市民が直接考える場を作る時期だと思っている
こういった住民自治については、ニセコ町とか東京都三鷹市といった先輩がいる
すでに進めている自治体も多々あると思う

そういった自治体の前例に学びながら、
小樽市も苦労しながら
住民が自分たちの問題、大きな方向性を決めていく必要があると思っている
私が一番伝えたいことは、小樽市の方向性をどうするのか
市民自身で考えなければならない時期ではないかということです
私自身は小樽市をどんな町にしたら良いのかというイメージを持っている
一言でいうと、「小樽にしか出来ないこと」「小樽であればこそ出来ること」
それをぜひ実現したいと思っている
例えば、教育一つを取ってみても、小樽のような小規模な町であれば
きめ細やかな、手の込んだ、皆さんが直接関わって下さるような
小規模な町であればこそその教育が出来ると思う
小樽は文化も芸術も似合う町なので、
小樽らしい施策も小規模な町であるがゆえに、
市民が一丸となって「そっちの方向に向かうぞ」と決めれば
小樽は変わっていくことが出来ると思っている
しかし、それもこれも私の思いを強引に進めるのではなく
まず私の思いを市民に伝えて、そして検討していただきたいと思う
小樽市の抱える課題はまだまだある
プールの問題、市民会館の問題、幾多の建物の改築の問題
インフラの問題、お金のかかる問題が山積みしている
そのほかに伝えたいのは医療と介護の問題
今、国は医療と介護の問題について大きく舵を切った
これから小樽市民は医療と介護という問題について
大変、困難な時期を迎えるのではないかと危惧している
私は医療職として仕事をしてきた
保健所では小樽市の医療ということについて考え、仕事をする立場に
立たせてもらった
介護保険開始の時には、第1期のケアマネージャーの資格も取り
小樽市の地域包括支援センターの立ち上げの時には、準備に携わった
私は医師であり介護の問題にも詳しくいろいろ勉強させてもらおうといった
大変恵まれた立場で仕事をさせていただいた
今まで皆さんに教えていただいた知見、それをぜひ小樽市政においても
実現させていただきたいと思う
医療の現場、介護の現場に軸足を置いた、そして市民に本当に役に立つ
施策をどうしたら良いのか、
この財源の厳しい小樽において何をしていたら良いのか
それは市民との話し合いの中で取り組まなければならない
大きな課題と考えている
私は小樽が大好きです
小樽は文化と芸術と教育の町として輝いていける町になってほしいと
心から思っている
また、小樽はもちろん観光都市です。

年間7~800万人といった観光客が訪れている
しかし、もっともっと一流の観光都市、小樽らしい観光都市に
変わっていきける可能性を持っているのではないかと思っている
そういった意味の観光振興、小樽の観光の質を問うといった仕事も
ぜひ市民と一緒にテーブルを囲んで進めたいと思う
最後になるが、小樽ポッケの理念として、多様性受容力がある
色々な相反する考えがあっても、色々な国籍があっても
宗教の違いがあっても、立場の違いがあっても、
それを否定しあうのではなく、お互いに共存していける町
小樽はおそらく多様性受容の町という方向性で
進んでいくことは可能だと思っている
これは私の中で核となる考え方
以上、私の市長選にかける思いを話させてもらいました